

## V 資料

● 拠点校の取組 ●

# 個々のニーズに応じた支援内容の研究と発信 ～第二回筑波大学障害学生支援研究会より～

青柳 まゆみ

(筑波大学 障害学生支援室助教)

## 一 はじめに

筑波大学は、一九七三年の開学以来多くの障害学生を受け入れ、インフォーマルな形で修学上の支援を行ってきた。二〇〇一年度には、全学組織として「障害学生支援委員会」が設置され、個別の支援から全学的な支援体制構築に向けた取り組みが始まりました。二〇〇七年度には「障害学生支援室 (Office for Students with Disabilities: OSD)」が発足し、支援体制の一層の充実が図られています。

さて、筑波大学は、障害学生支援の特色の一つとして「障

害科学に裏付けられ全学に平等に行きわたる支援体制」を掲げています。これは、本学に障害科学を専門とする研究スタッフが多数存在することにより、科学的な根拠に基づく支援ニーズの発掘と、より専門的な支援内容・方法の検討が可能であることを意味しています。

筑波大学では、このような特色を活かして障害学生支援に関する一連の研究を積極的に行い、その成果を学内外へ広く発信する場として、昨年度より「障害学生支援研究会」を開催しています。本稿では、今年一月四日に行われた第二回研究会の概要を報告し、本学の障害学生支援に関する取り組みの一端を紹介いたします。